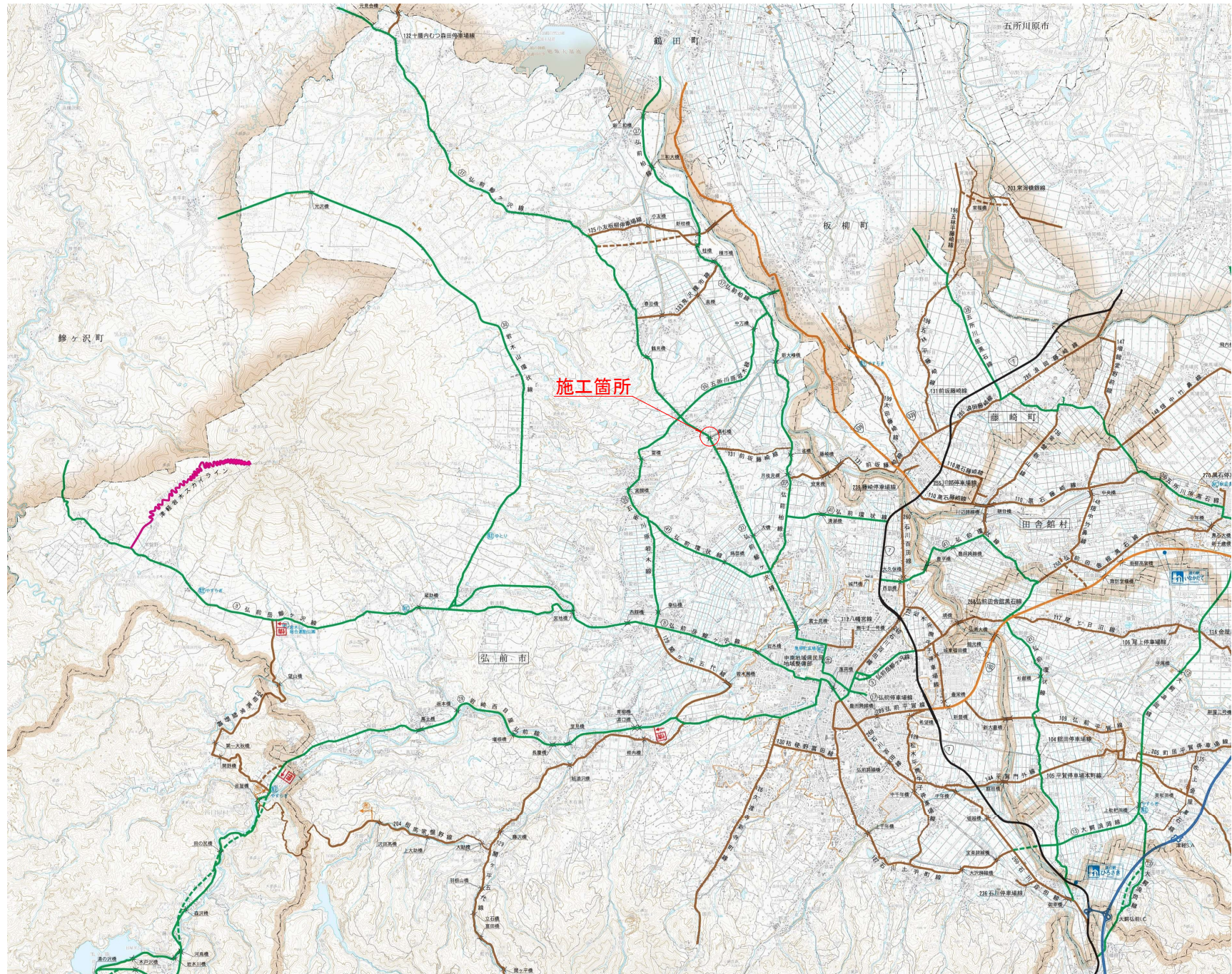


令和8年度 橋梁補修（高杉橋）工事	
工事番号	緑メンテ 第 388 号
路線名	弘前緑ヶ沢線
施工箇所	弘前市大字高杉 地内
位置図	縮尺 S=1:50,000
図面番号	15 画中 1
中南県土整備事務所	
青 森 県	

# 位置図

S=1:50,000

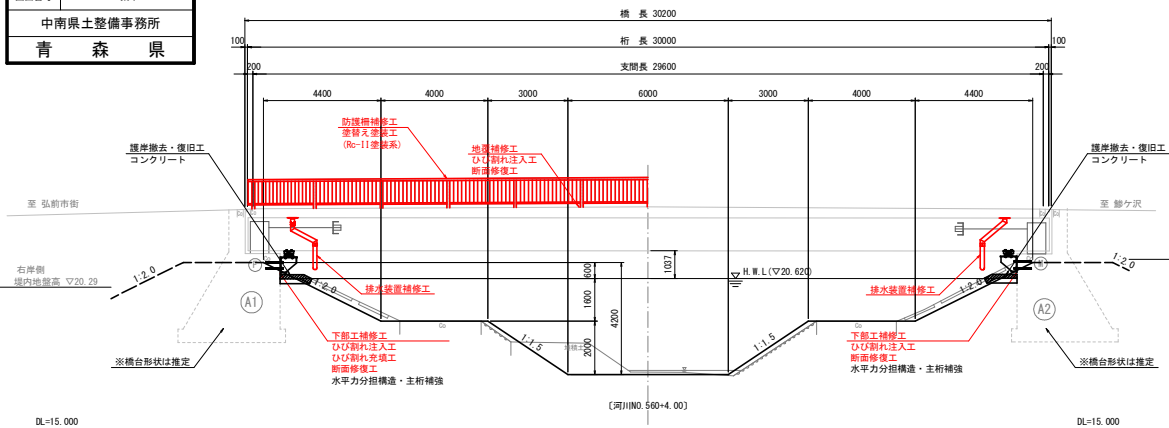




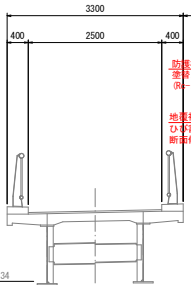
補修一般図

令和8年度 橋梁補修（高杉橋）工事	
工事番号	緑メンテ 第 388 号
路線名	弘前緑ヶ沢線
施工箇所	弘前市大字高杉 地内
補修一般図	縮尺 図 示
図面番号	15 案中 2
中南県土整備事務所	
青 森 県	

平面図 S=1:100

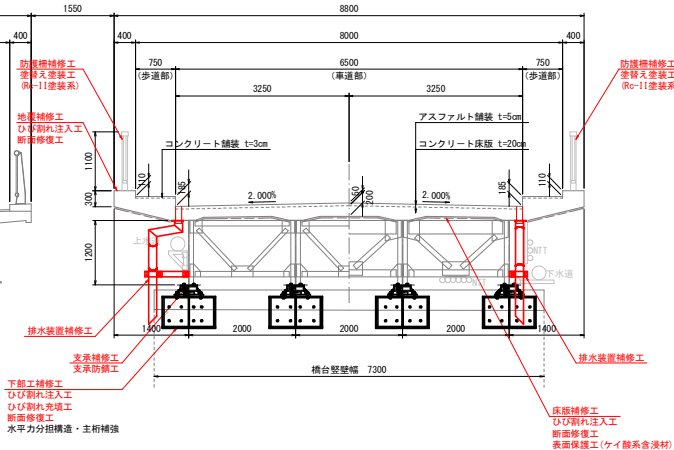


《人道橋》



断面図 S=1:50

《車道橋》



橋梁補修計画一覧表

部 材 名	補修対策	補修工法	備 考
上部工	地 覆	ひび割れ注入工 断面修復工	エポキシ樹脂系 左官工法
	伸縮装置	伸縮装置交換工	鋼製ジョイント
	防 護 柵	塗装工事	Ro-II塗装系
	排水装置	排水装置交換工	TSステンレス排水装置
	支 承	支保工	金属溶射
下部工	床 版	ひび割れ注入工 断面修復工 表面保護工	エポキシ樹脂系 左官工法 ケイ酸系含浸材
	橋 台	ひび割れ注入工 ひび割れ充填工 断面修復工 耐震補強工	エポキシ樹脂系 ポリマーセメント系モルタル 左官工法 水平力分担構造・主桁補強
	そ の 他	護岸撤去・復旧工	コンクリート
			(7) 16-3-25

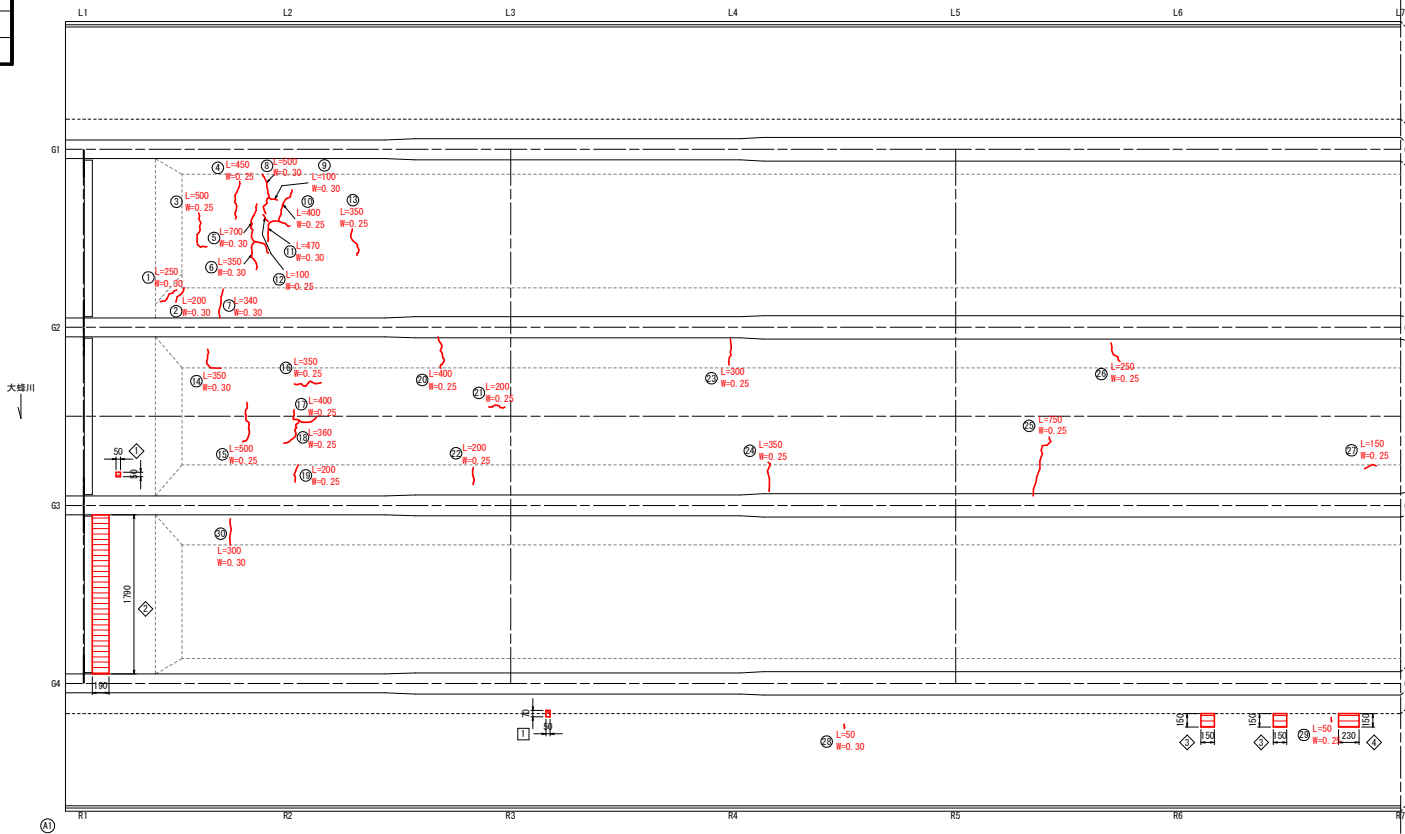
橋 梁 諸 元

路 線 名	弘前緑ヶ沢線 (第2次緊急輸送道路)
架 橋 架 件	大崎川 (管理者: 青森県)
竣 工 年 月	昭和45年11月 (1970)
橋 長	8L=30.200m
桁 長	8L=30.000m
有効幅員	車道部 6.500m 歩道部 0.750m
全 幅	8.800m
斜 角 直 橋	
橋 格	一等橋 (TL-20t)
上部工形式	活荷重単純合成鋼鉄桁 桁高H=1.200m
床 版	鉄筋コンクリート床版 t=20cm (推定)
橋 面 舗 装	アスファルト: 車道部t=5cm、コンクリート: 歩道部t=3cm
高 欄	鋼製高欄 H=1.100m
伸 縮 装 置	鋼製フィンガージョイント (止水材設置済み)
支 承	鋼製維支承
下部工形式	不 明

令和8年度 橋梁補修（高杉橋）工事	
工事番号	緑メンテ 第 388 号
路線名	弘前駅ヶ沢線
施工箇所	弘前市大字高杉 地内
床版補修工図 (1/2)	縮尺 図 示
図面番号	15 葉中 3
中南県土整備事務所	
青 森 県	

床版補修工図 (1/2)  
(A1~CL)

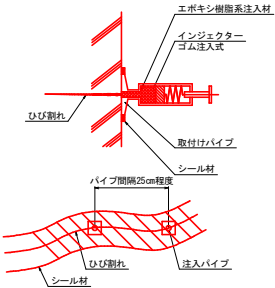
平面図 S=1:30



凡例	
	ひび割れ注入工 (エポキシ樹脂系、遮断石灰質)
	断面修復工 (左官工、鉄筋防錆処理無、ポリマーセメント)
	断面修復工 (左官工、鉄筋防錆処理有、ポリマーセメント)

断面図 S=1:100

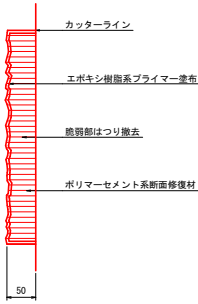
ひびわれ注入工詳細図 S=free



ひびわれ注入工集計表

番号	延長 (m)	幅 (mm)	備考
①	0.25	0.30	
②	0.20	0.30	
③	0.50	0.25	
④	0.45	0.25	
⑤	0.70	0.30	
⑥	0.35	0.30	
⑦	0.34	0.30	
⑧	0.50	0.30	
⑨	0.10	0.30	
⑩	0.40	0.25	
⑪	0.47	0.30	
⑫	0.10	0.25	
⑬	0.35	0.25	
⑭	0.35	0.30	
⑮	0.50	0.25	
⑯	0.35	0.25	
⑰	0.40	0.25	
⑱	0.36	0.25	
⑲	0.20	0.25	
⑳	0.40	0.25	
㉑	0.20	0.25	
㉒	0.20	0.25	
㉓	0.30	0.25	
㉔	0.35	0.25	
㉕	0.75	0.25	
㉖	0.25	0.25	
㉗	0.15	0.25	
㉘	0.05	0.30	
㉙	0.05	0.25	
㉚	0.30	0.30	
合計	9.87		

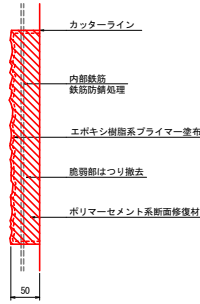
断面修復工詳細 (左官工) S=free



断面修復工集計表 (左官工、防錆処理無)

位置	幅 (mm)	延長 (m)	深さ (mm)	個数	面積 (㎡)	体積 (m³)	備考
◇	50	50	50	1	0.0025	0.0001	
◇	1790	190	50	1	0.3401	0.0170	
◇	150	150	50	2	0.0450	0.0023	
◇	150	230	50	1	0.0345	0.0017	
合計					0.4221	0.0211	

断面修復工詳細 (左官工) S=free



断面修復工集計表 (左官工、防錆処理有)

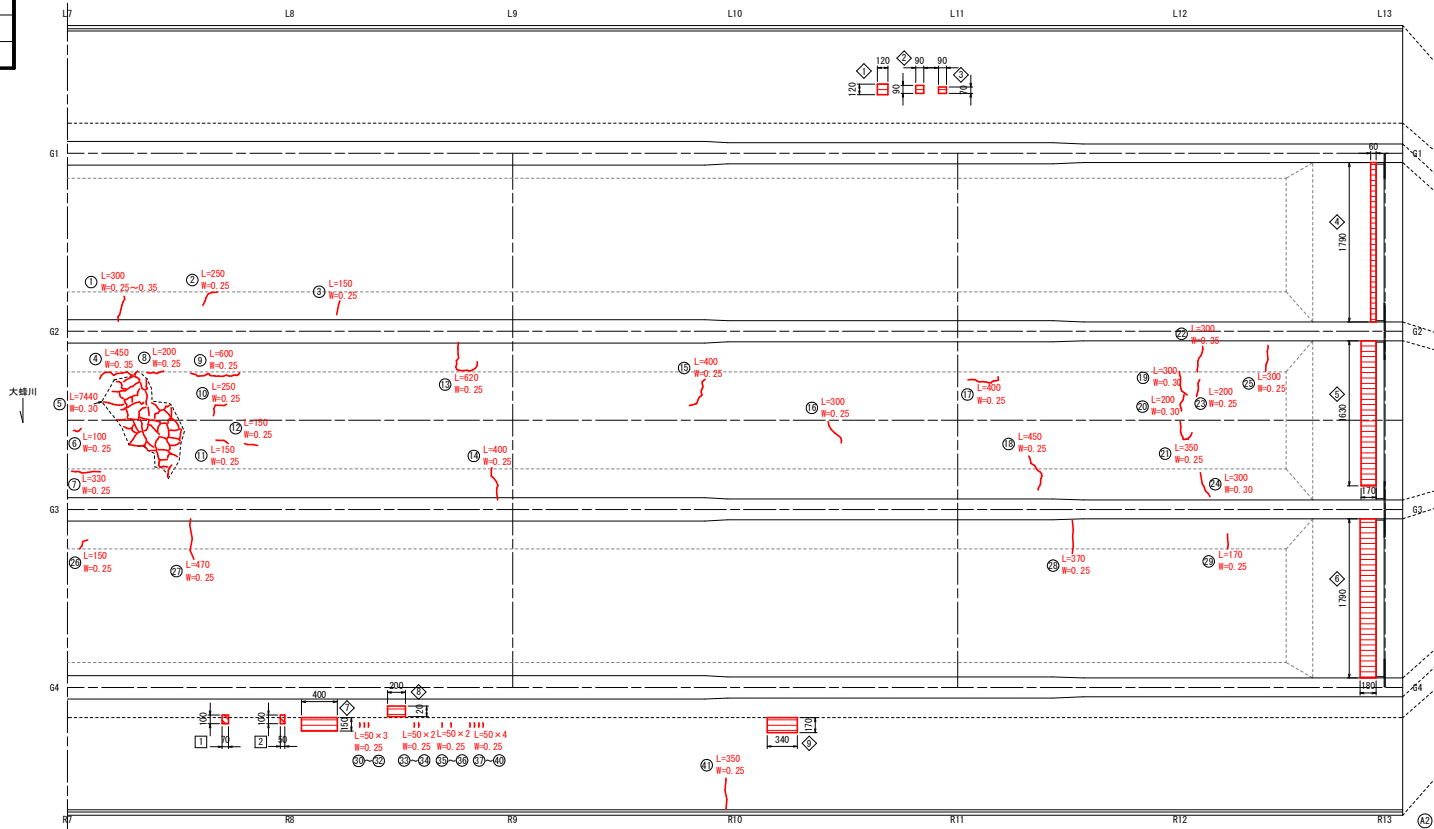
位置	幅 (mm)	延長 (m)	深さ (mm)	個数	面積 (㎡)	体積 (m³)	備考
□	70	50	50	1	0.0035	0.0002	
合計					0.0035	0.0002	

(特記事項)  
1. 図中詳細寸法等は現地検測のうえ決定すること。  
2. 防錆処理は、断面修復厚に拘らず、既設鉄筋の腐食状況および現場状況に応じて調整すること。

令和8年度 橋梁補修（高杉橋）工事			
工事番号	緑メンテ 第 388 号		
路線名	弘前駅～沢線		
施工箇所	弘前市大字高杉 地内		
床版補修工図 (2/2)	縮尺	図 示	
図面番号	15 葉中 4		
中南県土整備事務所			
青 森 県			

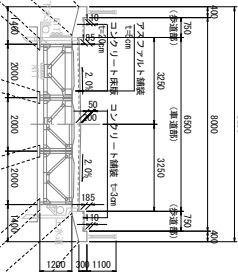
# 床版補修工図 (2/2) (CL～A2)

平面図 S=1:30

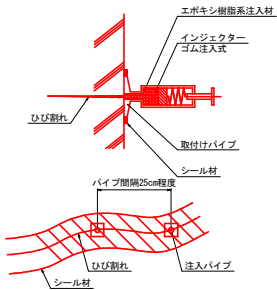


凡例	
	ひびわれ注入工 (エポキシ樹脂系、遮断石灰質)
	断面修復工 (左官工、鉄筋防錆処理無、ポリマーセメント)
	断面修復工 (左官工、鉄筋防錆処理有、ポリマーセメント)

断面図 S=1:100

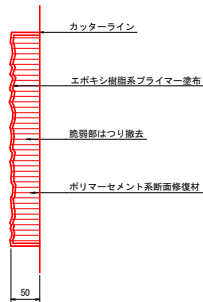


ひびわれ注入工詳細図 S=free



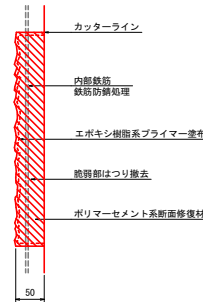
ひびわれ注入工集計表							
番号	延長L (m)	幅W (mm)	備考	番号	延長L (m)	幅W (mm)	備考
①	0.30	0.30	平均幅	②	0.30	0.35	
③	0.25	0.25		④	0.20	0.25	
⑤	0.15	0.25		⑥	0.30	0.30	
⑦	0.45	0.35		⑧	0.30	0.25	
⑨	7.44	0.30		⑩	0.15	0.25	
⑪	0.10	0.25		⑫	0.47	0.25	
⑬	0.33	0.25		⑭	0.37	0.25	
⑮	0.20	0.25		⑯	0.17	0.25	
⑰	0.60	0.25		⑱	0.05	0.25	
⑲	0.25	0.25		㉑	0.05	0.25	
㉒	0.15	0.25		㉓	0.05	0.25	
㉔	0.15	0.25		㉕	0.05	0.25	
㉖	0.62	0.25		㉗	0.05	0.25	
㉘	0.40	0.25		㉙	0.05	0.25	
㉚	0.40	0.25		㉛	0.05	0.25	
㉜	0.30	0.25		㉝	0.05	0.25	
㉞	0.40	0.25		㉟	0.05	0.25	
㊱	0.45	0.25		㊲	0.05	0.25	
㊳	0.30	0.30		㊴	0.05	0.25	
㊵	0.20	0.30		㊶	0.35	0.25	
㊷	0.35	0.25		合計	16.96		

断面修復工詳細 (左官工) S=free



断面修復工集計表 (左官工、防錆処理無)							
位置	幅 (mm)	延長 (mm)	深さ (mm)	個数	面積 (㎡)	体積 (m3)	備考
①	120	120	50	1	0.0144	0.0007	
②	90	90	50	1	0.0081	0.0004	
③	70	90	50	1	0.0063	0.0003	
④	1790	60	50	1	0.1074	0.0054	
⑤	1630	170	50	1	0.2771	0.0139	
⑥	1790	180	50	1	0.3222	0.0161	
⑦	150	400	50	1	0.0600	0.0030	
⑧	120	200	50	1	0.0240	0.0012	
⑨	170	340	50	1	0.0578	0.0029	
合計					0.8773	0.0439	

断面修復工詳細 (左官工) S=free



断面修復工集計表 (左官工、防錆処理有)							
位置	幅 (mm)	延長 (mm)	深さ (mm)	個数	面積 (㎡)	体積 (m3)	備考
①	100	70	50	1	0.0070	0.0004	
②	100	50	50	1	0.0050	0.0003	
合計					0.0120	0.0007	

(特記事項)

1. 図中詳細寸法等は現地検測のうえ決定すること。

2. 防錆処理は、断面修復厚に拘らず、既設鉄筋の腐食状況および現場状況に応じて調整すること。

S=1 : 50

中南県土整備事務所  
青 森 県

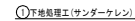
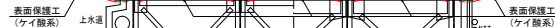
	表面保護工(ケイ酸系)
---	-------------

平面图



断面図

S=free

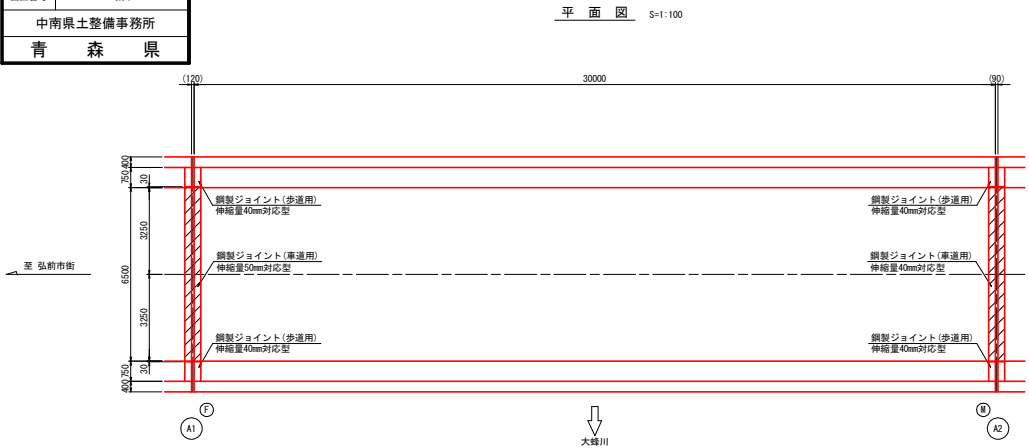


②ケイ酸系含浸性保護材塗布

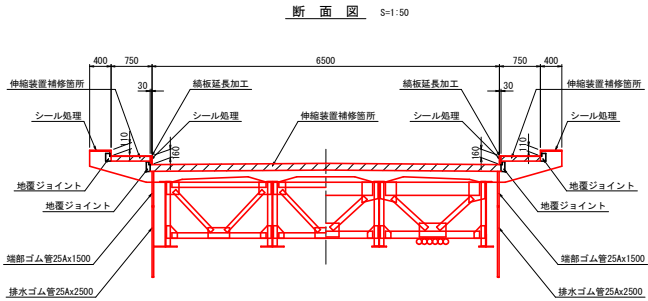
(特記事項)  
1. 図中詳細寸法等は現地検測のうえ決定すること。

令和8年度 橋梁補修（高杉橋）工事	
工事番号	橋メンテ 第 388 号
路線名	弘前駅〜沢線
施工箇所	弘前市大字高杉 地内
伸縮装置補修図(1/2)	縮尺 図 示
図面番号	15 葉中 6
中南県土整備事務所	
青 森 県	

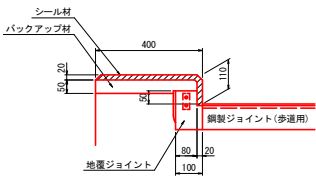
伸縮装置補修図(1/2)



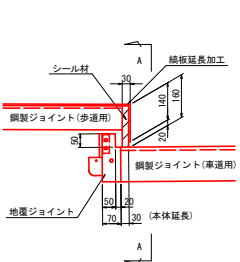
※（ ）内寸法は前回補修工事図面より。



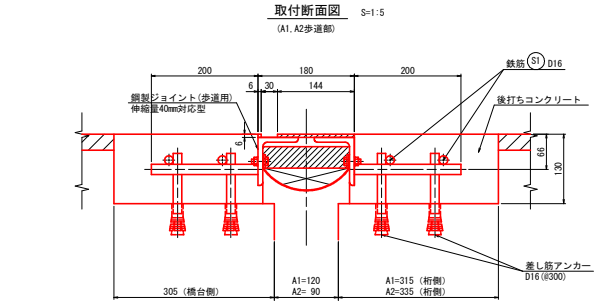
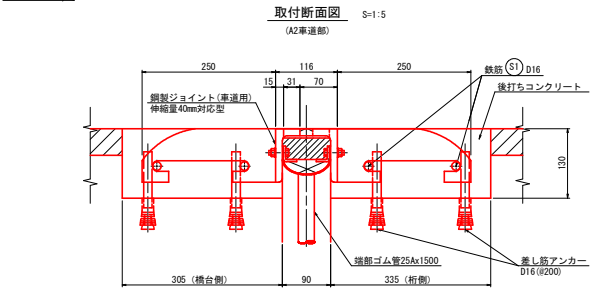
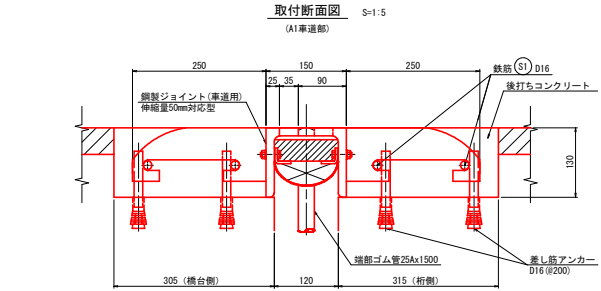
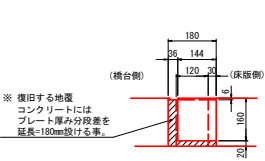
歩道部地覆詳細図 S=1:10



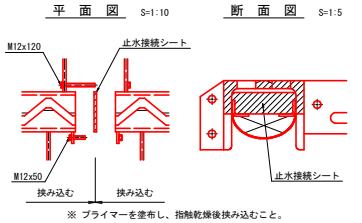
歩車道境界部詳細図 S=1:10



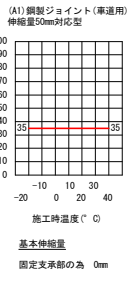
A-A 断面図 S=1:10



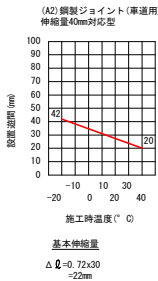
連結部止水接続シート詳細図 (車道部)



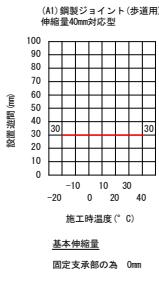
遊間設置表



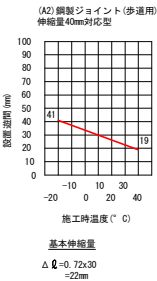
遊間設置表



遊間設置表



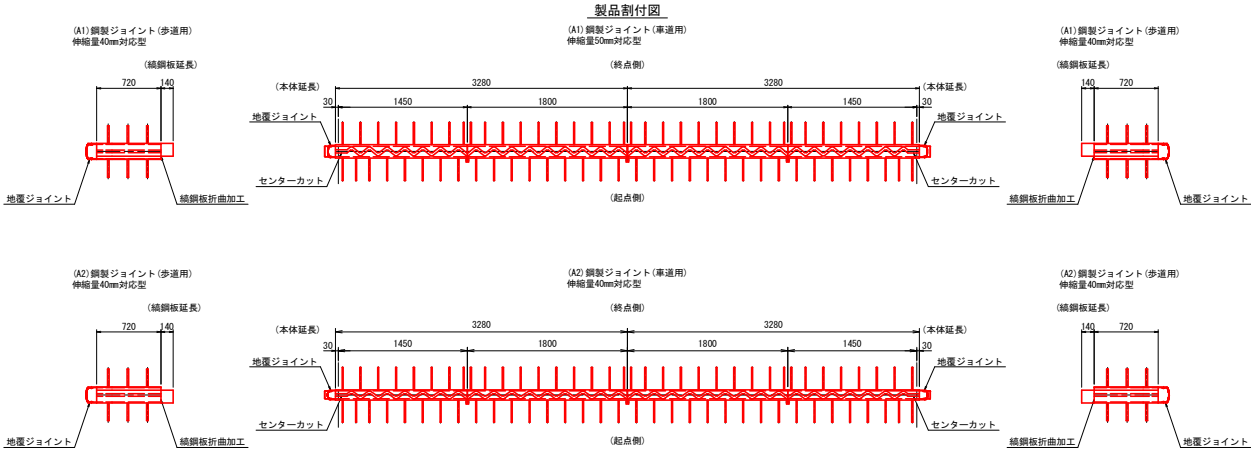
遊間設置表



令和8年度 橋梁補修（高杉橋）工事		
工事番号	緑メンテ 第 388 号	
路線名	弘前駅ヶ沢線	
施工箇所	弘前市大字高杉 地内	
伸縮装置補修図(2/2)	縮尺	S=1:30
図面番号	15	表中 7
中南県土整備事務所		
青 森 県		

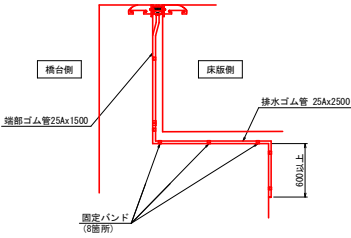
伸縮装置補修図(2/2)

S=1:30



排水ゴム管詳細図

A1, A2橋台部



数量表

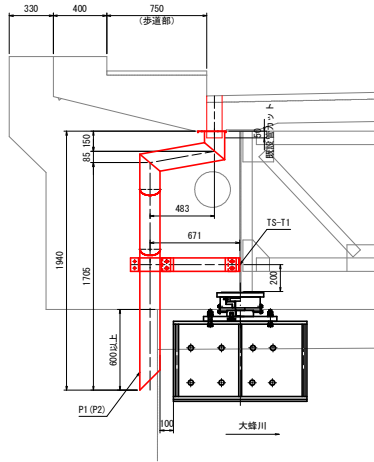
品名	仕様・規格	単位	A1	A2	合計	備考
鋼製ジョイント	車道用 伸縮量40mm対応型	m	-	6.560	6.560	本体延長含む
鋼製ジョイント	車道用 伸縮量50mm対応型	m	6.560	-	6.560	本体延長含む
鋼製ジョイント	歩道用 伸縮量40mm対応型	m	1.440	1.440	2.880	橋板延長加工
車道用地置ジョイント		箇所	-	2	2	伸縮量40mm対応型
車道用地置ジョイント		箇所	2	-	2	伸縮量50mm対応型
歩道用地置ジョイント		箇所	2	2	4	伸縮量40mm対応型
鉄版(S1) (通し筋)	D16 SD345	kg	40.56	40.56	81.12	車道部
鉄版(S1) (通し筋)	D16 SD345	kg	8.99	8.99	17.98	歩道部
差し筋アンカー	D16付 (L=260)	本	140	140	280	車道部
差し筋アンカー	D16付 (L=260)	本	24	24	48	歩道部
超速硬コンクリート	$\sigma_{pc} = 24.0N/mm^2$	m3	0.529	0.546	1.075	車道部
超速硬コンクリート	$\sigma_{pc} = 24.0N/mm^2$	m3	0.116	0.120	0.236	歩道部
シール材	低モジュラス	kg	4.32	3.24	7.56	地覆部・歩車道境界部
バックアップ材		kg	6.12	4.59	10.71	地覆部
端部ゴム管	25A x 1500	本	2	2	4	車道部
排水ゴム管	25A x 2500	本	2	2	4	車道部 固定金具含む

※ 図面寸法は、標準温度時の値とする。  
※ 材料製作前に必ず現地寸法の確認を行う事。

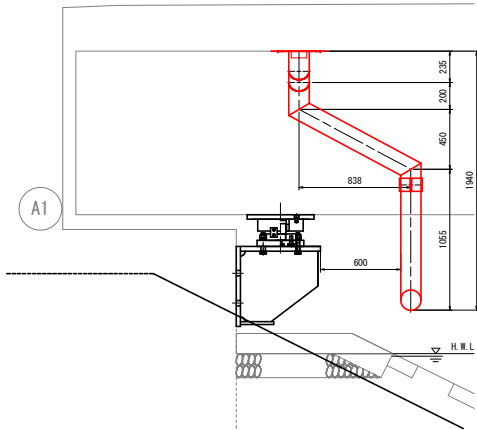
排水装置補修工図 (1/2)

令和8年度 橋梁補修（高杉橋）工事	
工事番号	橋メンテ 第 388 号
路線名	弘前駅ヶ沢線
施工箇所	弘前市大字高杉 地内
排水装置補修工図 (1/2)	縮尺 図 示
図面番号	15 葉中 8
中南県土整備事務所	
青 森 県	

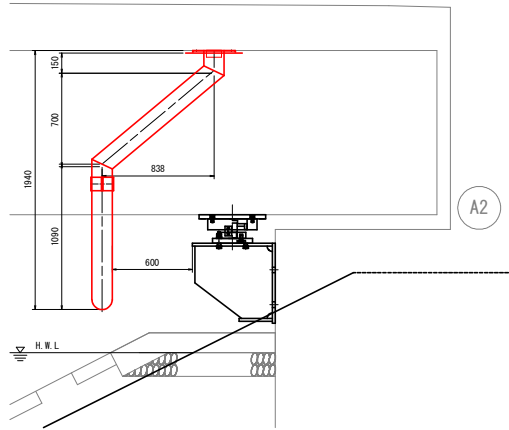
断面図 S=1:20  
(P1, P2)



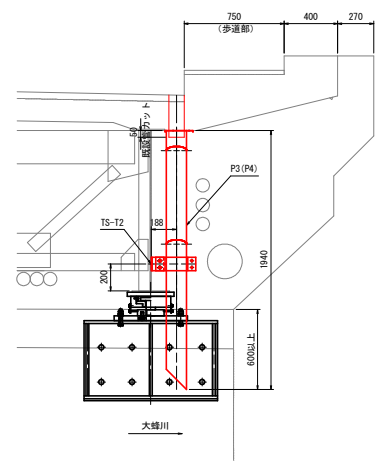
側面図 S=1:20  
(P1, P2)



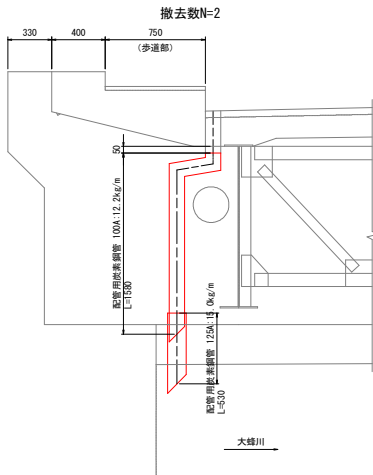
側面図 S=1:20  
(P3, P4)



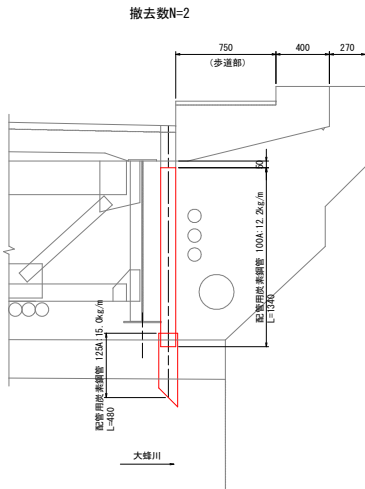
断面図 S=1:20  
(P3, P4)



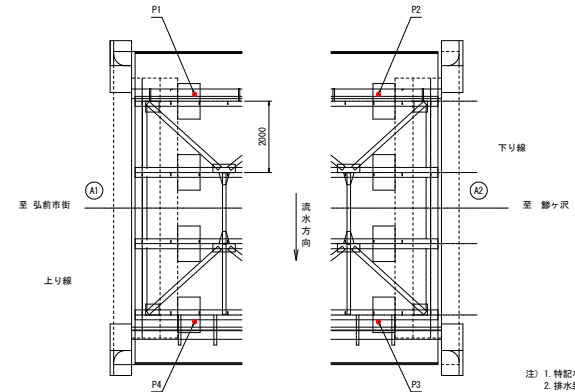
既設排水管撤去図 S=1:20  
(上流側)



既設排水管撤去図 S=1:20  
(下流側)



位置図 S=1:75



- 注) 1. 特記なき材質はすべてSUS304とする。  
2. 排水装置はTSステンレス排水装置に準ずる。  
3. SS400は全て溶融亜鉛メッキ  
(特記なき場合は JIS H 8041 H02177)  
は上げを行う。但し、ボルト類はH02149とする。  
4. 寸2.0未満のステンレス鋼材溶接部内外面に対し  
耐食性向上の措置を講じる。  
5. 現地調査にて寸法確定後製作する。



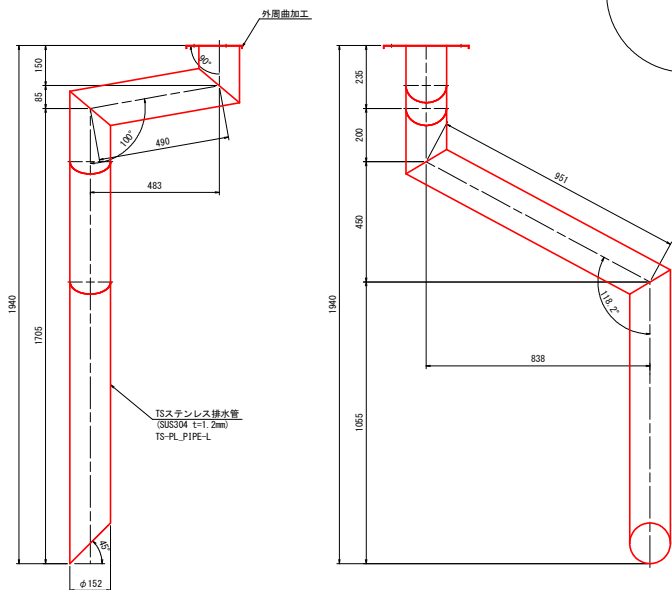
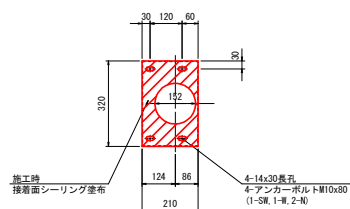
令和8年度 橋梁補修（高杉橋）工事		
工事番号	緑メンテ 第 388 号	
路線名	弘前緑ヶ丘線	
施工箇所	弘前市大字高杉 地内	
排水装置補修工事 (2/2)	縮尺	S=1:10
図面番号	15 葉中 9	
中南県土整備事務所		
青 森 県		

## 排水装置補修工図(2/2)

S=1:10

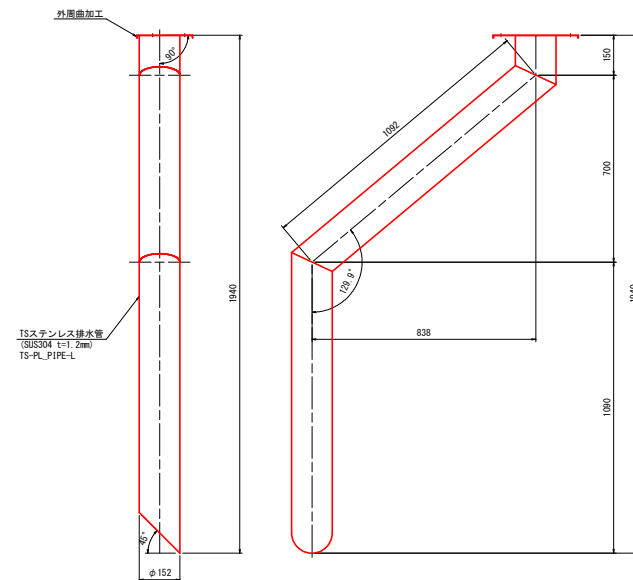
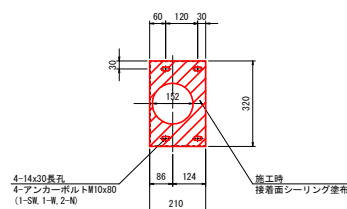
天板プレート一体型排水装置  
NETIS No. CB-190003-Aに準ずる

P1 (P2)  
製作数=1 (1)



※P2は反転形状とする

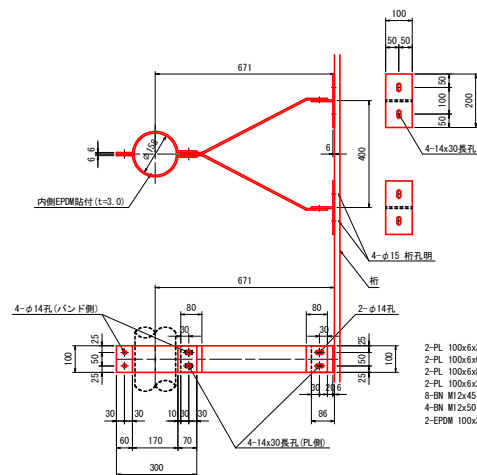
P3 (P4)  
製作数=1 (1)



※P4は反転形状とする

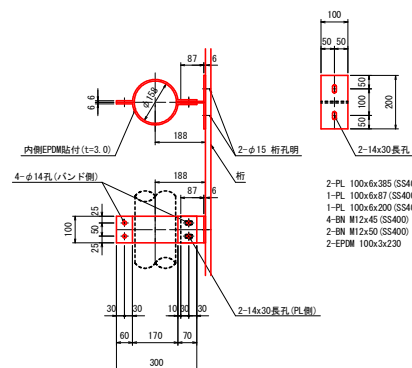
P1 (P2)  
取付金具詳細図

製作数=2



P3 (P4)  
取付金具詳細図

製作数=2

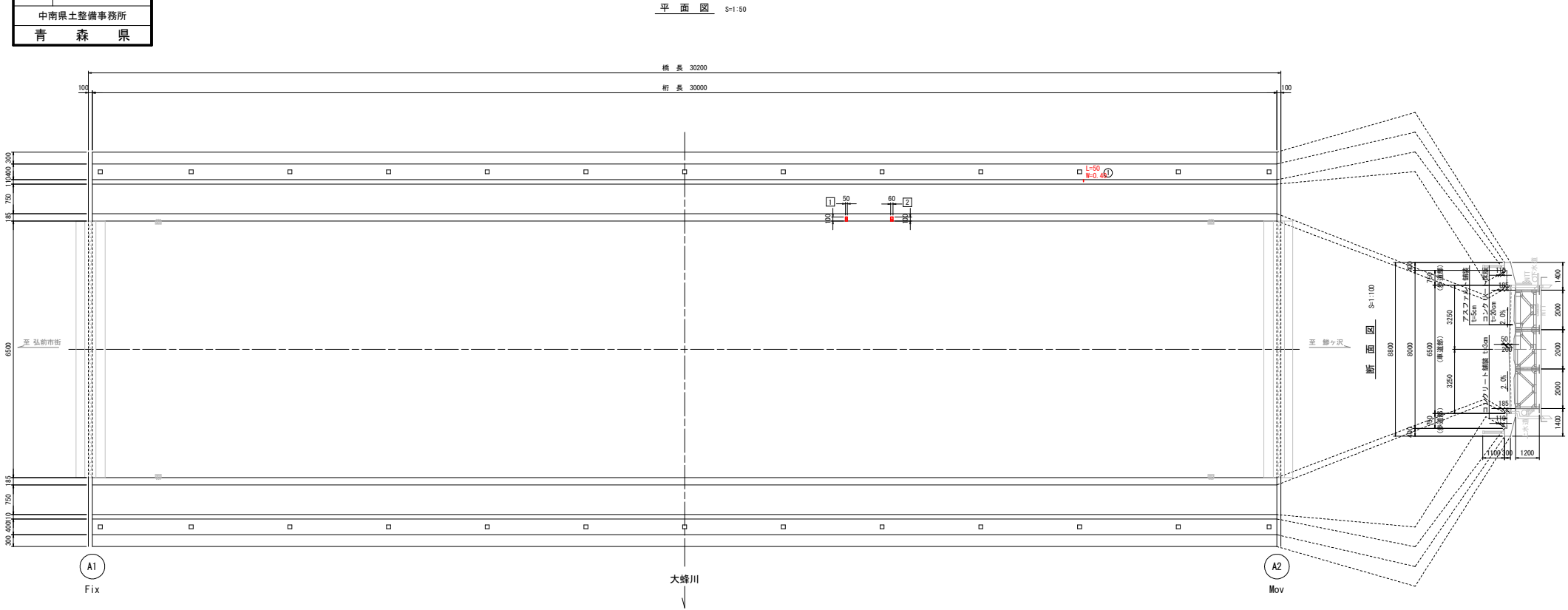


- 注) 1. 特記なき材質はすべて SUS304 とする。  
2. 排水装置は T5 標準排水装置に準ずる。  
3. 支板プレート一体型排水装置は、NETIS No. CB-190003-AI に準ずる。  
4. SS400 は全て溶接部鉛メッキ  
(特記なき場合は JIS H 8641 H2T77)  
仕上を行う。但し、ボルト類は H2T48 に対し  
1. 2-2.0 未満のステンレス鋼材溶接部内外面に耐食  
耐食性向上の措置を講じる。  
5. 現地調査にて法定検定後製作する。

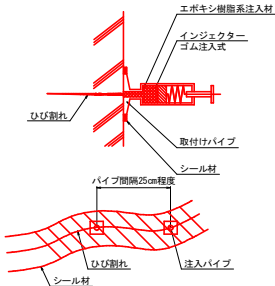
令和8年度 橋梁補修（高杉橋）工事	
工事番号	緑メンテ 第 388 号
路線名 河川名	弘前駅ヶ沢線
施工箇所	弘前市大字高杉 地内
地覆補修工図	縮尺 図 示
図面番号	15 葉中 10
中南県土整備事務所	
青 森 県	

地覆補修工図

	ひびわれ注入工 (エポキシ樹脂系、遮断石灰臍)
	断面修復工 (左官工、鉄筋防錆処理有、ポリマーセメント)

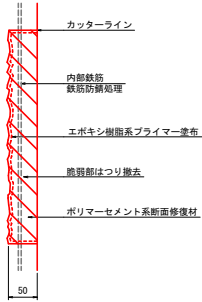


ひびわれ注入工詳細図 S=free



番号	延長L (m)	幅W (mm)	備考
①	0.05	0.40	
合計	0.05		

断面修復工詳細（左官工） S=free



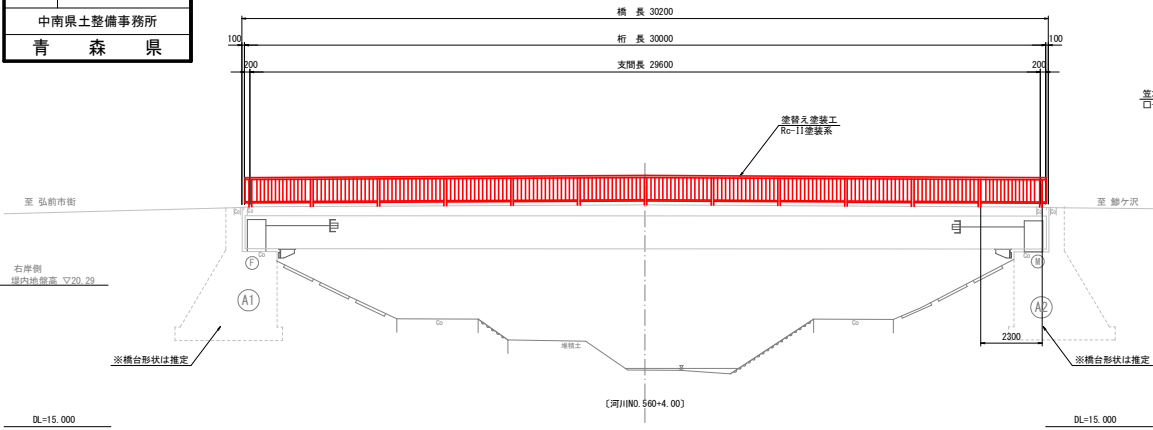
位置	幅 (mm)	延長 (mm)	深さ (mm)	個数	面積 (㎡)	体積 (㎡)	備考
①	50	100	50	1	0.0050	0.0003	
②	60	100	50	1	0.0060	0.0003	
合計					0.0110	0.0006	

(特記事項)  
1. 図中詳細寸法等は現地検測のうえ決定すること。  
2. 防錆処理は、断面修復厚に拘らず、既設鉄筋の腐食状況および現場状況に応じて調整すること。

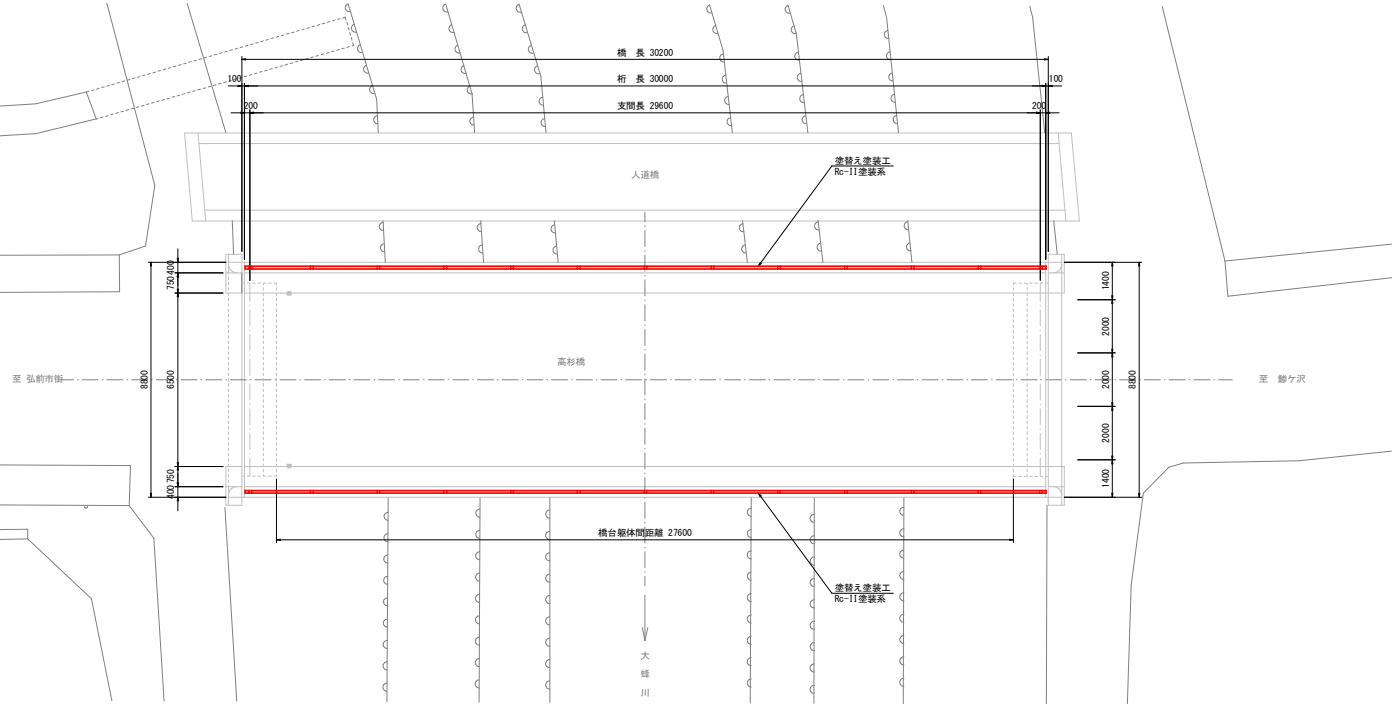
令和8年度 橋梁補修（高杉橋）工事	
工事番号	緑メンテ 第 388 号
路 線 名	弘前駅ヶ沢線
施工箇所	弘前市大字高杉 地内
防護柵補修工図	縮尺 図 示
図面番号	15 第中 11
中南県土整備事務所	
青 森 県	

防護柵補修工図

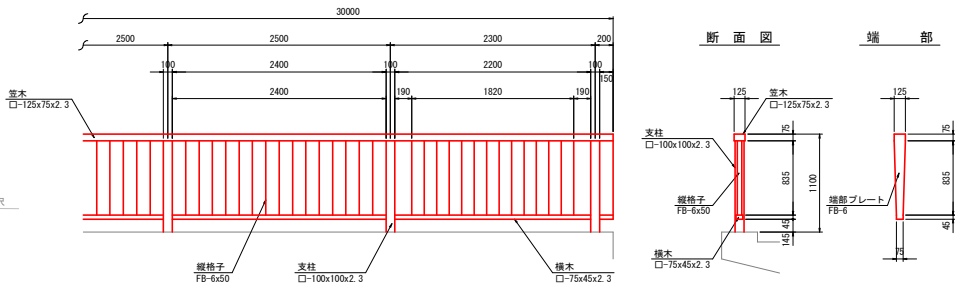
側 面 図 S=1:100



平 面 図 S=1:100



防護柵詳細図 S=1:30



塗 装 仕 様

- ・橋体工塗装仕様は、鋼道防錆防食便覧（平成26年3月）に準拠し下表のとおりとする。
- ・塗装開始の下限は20℃の場合を示す。温度が低い場合は、塗膜の乾燥状態を調べ、塗膜が硬化乾燥していることを確認してから塗料を塗り重ねること。
- ・素地調整により露出させた鋼材面は錆が発生しやすいため、素地調整終了後はできるだけ早く塗付作業を開始すること。

Rc-11塗装系

塗装工程	塗 料 名	標準使用量 (g/m <sup>2</sup> )	塗装間隔
剥離剤塗布	リペアソルブS-2	500g/m <sup>2</sup> × 2回	
素地調整	3種Bケレン		4時間以内
防食下地	有機ジンクリッチペイント※1	600g/m <sup>2</sup>	1日～10日※2
下塗り	弱溶剤変性エポキシ樹脂塗料下塗	200g/m <sup>2</sup>	1日～10日
下塗り	弱溶剤変性エポキシ樹脂塗料下塗	200g/m <sup>2</sup>	1日～10日
中塗り	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗	140g/m <sup>2</sup>	1日～10日
上塗り	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗	120g/m <sup>2</sup>	1日～10日

※1:素地調整程度2種ではあるが、健全なジンクリッチプライマーやジンクリッチペイントを残し、他の旧塗膜を全面除去した場合は、鋼材露出部のみ有機ジンクリッチペイントを塗布する。この際、使用量の目安は、240g/m<sup>2</sup>程度である。素地調整程度2種で旧塗膜を全面除去した場合は、有機ジンクリッチペイントの使用量が400g/m<sup>2</sup>である。

※2:現場の施工条件に応じて塗装間隔を別途取り決める場合もある。

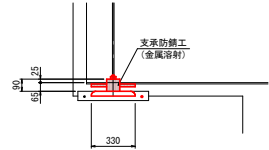
(特記事項)  
1. 図中詳細寸法等は現地検測のうえ決定すること。

令和8年度 橋梁補修（高杉橋）工事			
工事番号	継メンテ 第 388 号		
路線名	弘前駅前沢線		
施工箇所	弘前市大字高杉 地内		
支保補修区	縮尺	図 示	
図面番号	15 葉中 12		
中南県土整備事務所			
青 森 県			

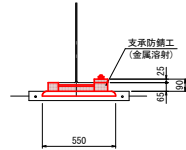
## 支 承 補 修 図

（ 支 承 防 錆 ）

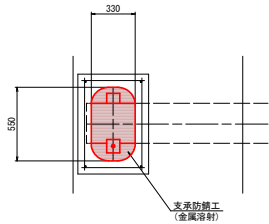
側 面 図 S=1:20



正 面 図 S=1:20

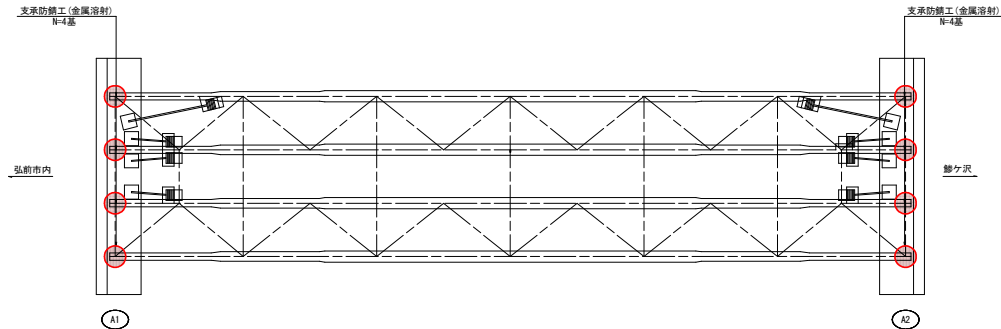


平 面 図 S=1:20



位 置 図 S=1:100

○ : 施工位置



支保防錆施工フロー



構造上注入可能な支保に限り行う。

セラミック含有粗面形成材  
使用量 0.100kg/m<sup>2</sup>

亜鉛/アルミニウム合金最少膜厚100μm  
使用量 Zn : 0.630kg/m<sup>2</sup>  
Al : 0.250kg/m<sup>2</sup>

リン酸塩含有エポキシ樹脂塗料  
使用量 0.250kg/m<sup>2</sup>

浸透性エポキシ樹脂塗料  
使用量 0.250kg/m<sup>2</sup>

※1 施工時に既設支保への潤滑剤注入が可能であるかを確認し、注入可能な場合は  
監督職員と協議の上、注入方法、潤滑剤の種類を決定し、施工を実施すること。  
なお、潤滑剤の注入は数量の増を伴うため、設計変更の対象とする。

※2 溶射困難部の代替塗装は常温亜鉛めっき塗装とする。

支保防錆工集計表

		反力 (t)	数 量
A1	線 支 承	150 t 以下	4 基
A2	線 支 承	150 t 以下	4 基
合 計			8 基

(特記事項)

1. 図中詳細寸法等は、現地検測のうえ決定すること。



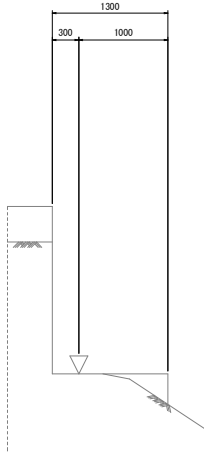
令和8年度 橋梁補修（高杉橋）工事			
工事番号	緑メンテ 第 388 号		
路線名	弘前緑ヶ沢線		
施工箇所	弘前市大字高杉 地内		
下部工補修工図(1/2)	縮尺	図示	
図面番号	15	頁中	13
中南県土整備事務所			
青 森 県			

下部工補修工図(1/2)

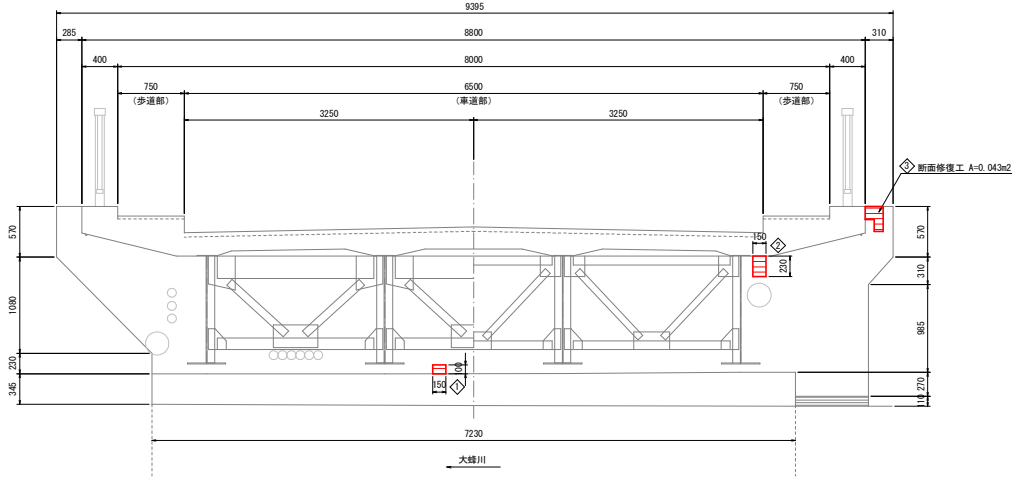
凡例

	ひびわれ注入工 (エポキシ樹脂系、道床石灰質)
	ひびわれ充填工 (ポリマーセメント系モルタル)
	断面修復工 (左官工、鉄筋防錆処理無、ポリマーセメント)

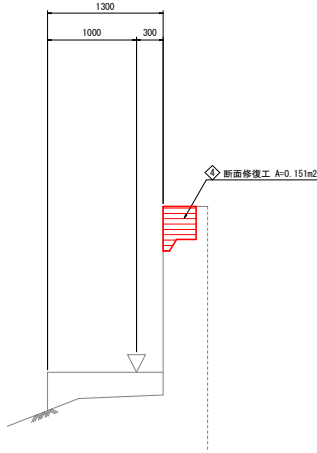
下流側側面図 S=1:30



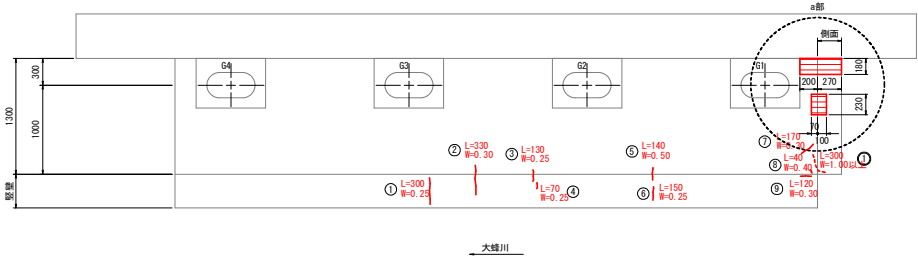
A1橋台正面図 S=1:30



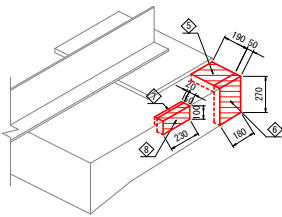
上流側側面図 S=1:30



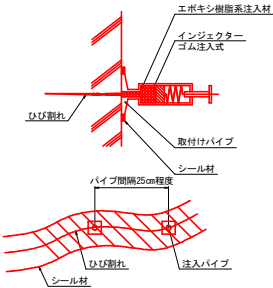
A1橋台平面図 S=1:30



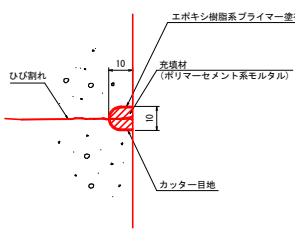
a部詳細図 S=1:30



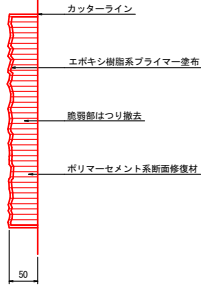
ひびわれ注入工詳細図 S=free



ひびわれ充填工詳細図 S=free



断面修復工詳細（左官工） S=free



ひびわれ注入工集計表

番号	延長L (m)	幅W (mm)	備考
①	0.30	0.25	
②	0.33	0.30	
③	0.13	0.25	
④	0.07	0.25	
⑤	0.14	0.50	
⑥	0.15	0.25	
⑦	0.17	0.30	
⑧	0.04	0.40	
⑨	0.12	0.30	
合計	1.45		

ひびわれ充填工集計表

番号	延長L (m)	幅W (mm)	備考
⑩	0.30	1.00以上	
合計	0.30		

断面修復工集計表(左官工、防錆処理無)

位置	幅 (mm)	延長 (mm)	深さ (mm)	回数	面積 (m2)	体積 (m3)	備考
①	150	100	50	1	0.0150	0.0008	
②	150	230	50	1	0.0345	0.0017	
③		50	1	0.0430	0.0022		
④		50	1	0.1510	0.0076		
⑤	190	180	50	1	0.0342	0.0017	
⑥	180	270	50	1	0.0486	0.0024	
⑦	230	20	50	1	0.0046	0.0002	
⑧	230	100	50	1	0.0230	0.0012	
合計					0.3539	0.0178	

(特記事項)

1. 図中詳細寸法等は現地検測のうえ決定すること。

2. はつり処理等を行い鉄筋が露出した場合は、鉄筋防錆処理を行うこと。

令和8年度 橋梁補修（高杉橋）工事		
工事番号	様メンテ 第 388 号	
路線名	弘前野ヶ沢線	
施工箇所	弘前市大字高杉 地内	
下部工補修工図(2/2)	縮尺	S=1:30
図面番号	15	表中 14
中南県土整備事務所		
青 森 県		

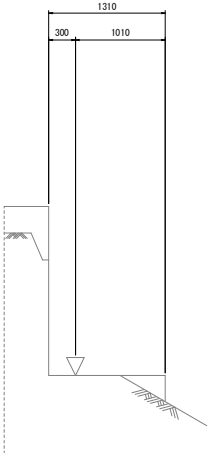
下部工補修工図(2/2)

S=1:30

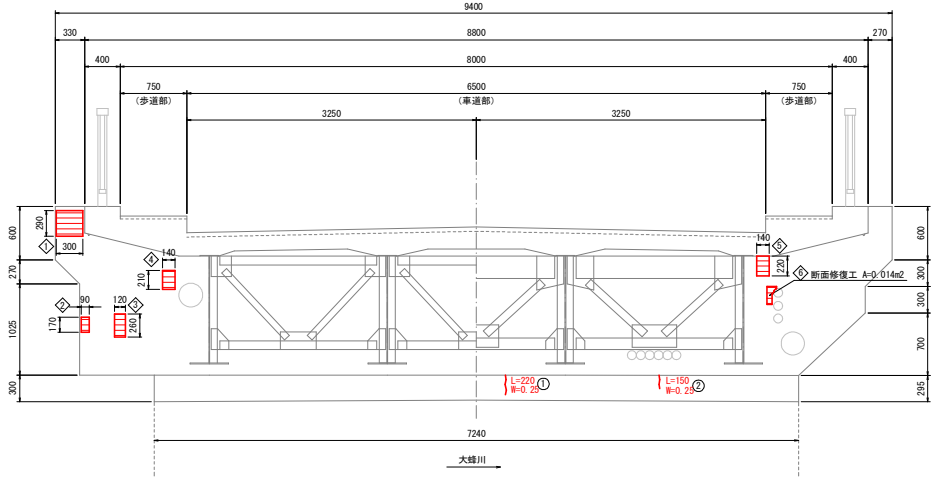
凡例

	ひびわれ注入工 (エポキシ樹脂系、道路石灰質)
	断面修復工 (左官工、鉄筋防錆処理無、ポリマーセメント)

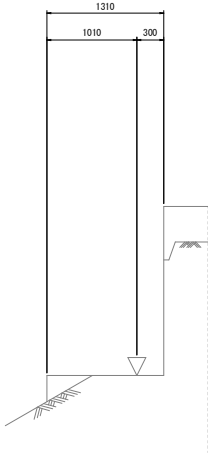
上流側側面図



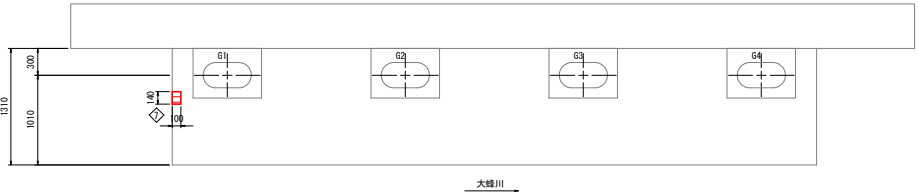
A2橋台正面図



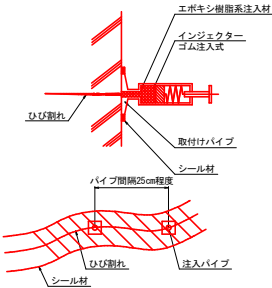
下流側側面図



A2橋台平面図

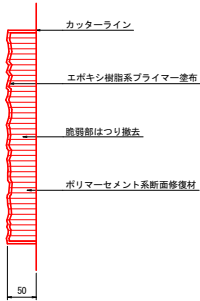


ひびわれ注入工詳細図 S=free



番号	延長(m)	幅(mm)	備考
①	0.22	0.25	
②	0.15	0.25	
合計	0.37		

断面修復工詳細（左官工） S=free



断面修復工集計表（左官工、防錆処理無）							
位置	幅(mm)	延長(mm)	深さ(mm)	個数	面積(m <sup>2</sup> )	体積(m <sup>3</sup> )	備考
◇	300	290	50	1	0.0870	0.0044	
◇	90	170	50	1	0.0153	0.0008	
◇	120	260	50	1	0.0312	0.0016	
◇	140	210	50	1	0.0294	0.0015	
◇	140	220	50	1	0.0308	0.0016	
◇		50	1	0.0140	0.0007		
◇	100	140	50	1	0.0140	0.0007	
合計					0.2217	0.0113	

(特記事項)  
1. 図中詳細寸法等は現地検測のうえ決定すること。  
2. はつり処理等を行い鉄筋が露出した場合は、鉄筋防錆処理を行うこと。

令和8年度 橋梁補修（高杉橋）工事	
工事番号	様メンテ 第 388 号
路線名	弘前駅前線
施工箇所	弘前市大字高杉 地内
足場参考図	縮尺 図 示
図面番号	15 真中 15
中南県土整備事務所	
青 森 県	

## 足場参考図

側面図 S=1:100

橋長 30200

桁長 30000

支間長 29600

外側吊足場

端部吊足場

中央部吊足場

板張り防護  
・剥離養生

手摺柱  
φ48.6x2.4@1800

単管手摺  
φ48.6x2.4

中段ころばし材  
φ48.6x2.4  
@900

中段足場  
鋼製足場板  
(番線固定)

チェーン吊り金具

下段足場  
鋼製足場板  
(番線固定)

吊チェーンφ1800  
(ループ吊り)

キャッチクランプ

安全ネット

おやご材  
φ48.6x2.4

ころばし材  
φ48.6x2.4 @900

（河川0.30+4.00）

（河川0.30+4.00）

（河川0.30+4.00）

（河川0.30+4.00）

（河川0.30+4.00）

（河川0.30+4.00）

（河川0.30+4.00）

（河川0.30+4.00）

（河川0.30+4.00）

（河川0.30+4.00）

（河川0.30+4.00）

（河川0.30+4.00）

（河川0.30+4.00）

（河川0.30+4.00）

（河川0.30+4.00）

（河川0.30+4.00）

（河川0.30+4.00）

（河川0.30+4.00）

（河川0.30+4.00）

（河川0.30+4.00）

（河川0.30+4.00）

（河川0.30+4.00）

（河川0.30+4.00）

（河川0.30+4.00）

（河川0.30+4.00）

（河川0.30+4.00）

（河川0.30+4.00）

（河川0.30+4.00）

（河川0.30+4.00）

（河川0.30+4.00）

（河川0.30+4.00）

（河川0.30+4.00）

（河川0.30+4.00）

（河川0.30+4.00）

（河川0.30+4.00）

（河川0.30+4.00）

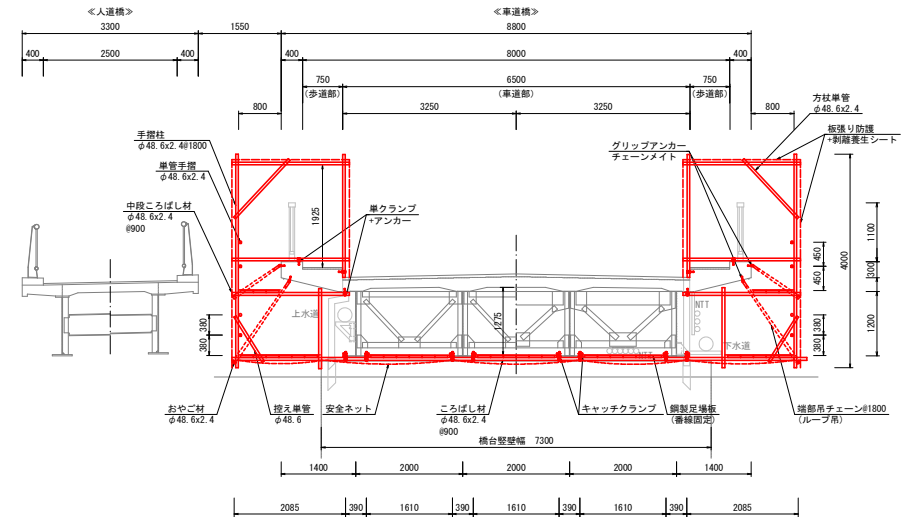
（河川0.30+4.00）

（河川0.30+4.00）

（河川0.30+4.00）

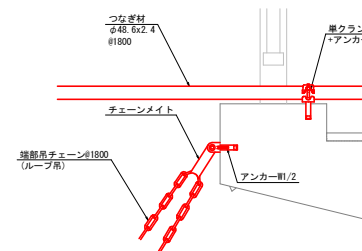
（河川0.30+4.00）

断面図 S=1:50

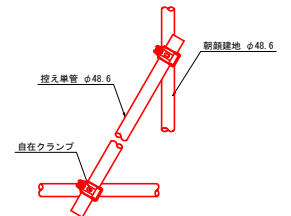


チェーン吊り元詳細図 S=1:10

高橋部詳細図

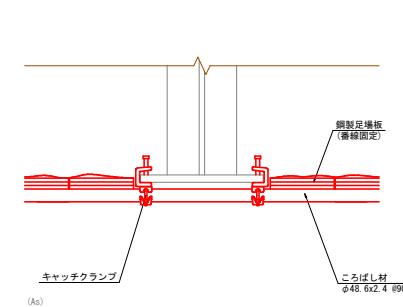


控え単管詳細図 S=1:10



吊り足場端部詳細図 S=1:10

桁下吊り元固定金具詳細図 S=1:10



- (特記事項)
- 図中群集付法等は現地検測のうえ決定すること。
  - 工事にあたり、仮設方法などについて、現地の状況を把握後、適する工法を選定し、関係諸機関と協議を行ってから作業すること。